

令和 3 年 6 月 15 日現在

機関番号：33906

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02191

研究課題名（和文）ハンナ・アーレント思想の哲学・倫理的意義の総合的再検討

研究課題名（英文）A comprehensive review of the philosophical-ethical significance of Hannah Arendt's thought

研究代表者

三浦 隆宏（MIURA, Takahiro）

椋山女学園大学・人間関係学部・准教授

研究者番号：90633917

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、哲学・倫理学の観点からハンナ・アーレント思想の再検討を行なった。具体的にはカントやマルクス、ハイデガー、ヨナス、リクールといった哲学者らとの比較研究を行ない、彼女の労働論や判断力論の特徴について議論した。また彼女の思想の現代的意義を「ポピュリズム」や「シティズンシップ」「反出生主義」といった観点から検討した。そして研究成果として『アーレント読本』を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究期間内に開催したシンポのうち、「哲学と政治—フランス・イタリア思想におけるアーレント」と「アーレントvs.カント—政治・自由・判断力」は、いずれも現在のアーレント研究においてホットな話題に応えるものであった。また「ポピュリズム」や「シティズンシップ」「生まれること」というテーマで実施したシンポも、現代世界のアクチュアルな課題にアーレント思想として応答するという意義をもっていたと言える。研究成果は、日本アーレント研究会の会報である『Arendt Platz』で順次公表し、さらには国内初のアーレント思想全体の案内書である『アーレント読本』の刊行で、学界や社会へと広く還元することができた。

研究成果の概要（英文）：In this study, we re-examined Hannah Arendt's thought from the perspective of philosophy and ethics. Specifically, we conducted a comparative study with philosophers such as Kant, Marx, Heidegger, Jonas, and Ricoeur, and discussed the characteristics of her theories of labor as well as that of judgment. We also examined the contemporary significance of her ideas from the perspectives of "populism", "citizenship" and "anti-natalism". As an outcome of our research, we published "The Arendt Reader".

研究分野：哲学・倫理学

キーワード：ハンナ・アーレント マルクス カント 判断力 哲学と政治 ポピュリズム シティズンシップ 反出生主義

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

2012年に世界各国で上映された映画『ハンナ・アーレント』のヒットや2016年のトランプ(前)大統領誕生時に米国で『全体主義の起源』が急激に売り上げを伸ばしベストセラーとなったことが示すように、近年ますますアーレント思想への注目が高まっている。国内でも同様に、アーレントに関する新書・選書が何冊も刊行され、学会・シンポジウムで主題的に取り上げられるなど、改めて彼女の思想に関心が集まっている。とりわけ米国国会図書館所蔵のArendt Papersのオンライン公開が進み、彼女の草稿が相次いで出版されるようになった2000年代以降において、彼女の思想がいっそう豊饒な内容をもつことが明らかになりつつある。

こうしてようやくアーレントの思想を客観的に分析する段階に入っているわけだが、とはいえこれらの資料の学術的な整理が十分適切になされているとは言いがたい。ここ数年飛躍的な量で公刊されている二次資料については尚更である。たとえば、マルクス論や『ユダヤ論集』など、これまでのアーレント研究のいくつかの解釈を書き換える資料も見られるのだが、そうした解釈の刷新のためにも、まずはアーレントの一次資料・二次資料の学術的な整理が急務であると言える。

さらにまた、上述のような公刊ラッシュに合わせた現在の国際的なアーレント研究の趨勢の一つとして、他の哲学者・思想家との比較研究を挙げることができる。ヤスパース、ハイデガー、ヨナス、アンダース、フェーゲリンといった直接交流のあった思想家らについても、書簡集が出版されるなど、新資料から新たな視座が提示され始めている。そしてこれまでは言及されなかった思想家についても積極的に比較研究が進められつつある。こうした状況を受けて、本研究代表者らは、アーレント思想の哲学・倫理学的意義を現代の思想的な文脈のなかに置き直して再評価することが現在求められていると考えるに至った。以上が、研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

本研究ではこれまで主に政治思想史を中心に研究されてきたハンナ・アーレントの思想について、第一に、資料的な再整理を行ない、第二に、比較研究を通じてアーレント思想を哲学・倫理学研究のなかで位置づけ、第三に、これを社会学、教育学、科学技術論など領域横断的な観点からの再検討へと結びつけ、第四に、諸外国のアーレント研究と国際的に連携していくことで、ハンナ・アーレント思想の全体像を刷新することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、研究代表者および分担者、協力者らが中心となって運営してきた日本アーレント研究会の場を活用し、国内外の研究者らとも幅広く連携して、継続的に研究会とシンポジウムを開催するという方法を採用した。テーマとしては概ね以下の三つを設定した。

第一の主題は、アーレントの一次資料・二次資料の学術的な再整理である。アーレントの主要テキストには英語版とドイツ語版の双方が存在し、なかにはかなりの異同が見られるものもある。そこで既刊の著作や講義録、草稿、書簡類といった種類別に、現在の国際的な研究の進展を反映させたいうで、それぞれを再検討し、アーレント研究のコーパスを確定することを目標とした。なお、本研究期間内の2018年から『ハンナ・アーレント批判版全集(Hannah Arendt. Kritische Gesamtausgabe)』が公刊されることとなり、これをもとに研究を遂行してゆくのがベストなため、この主題は新たな研究課題へと引き継ぐこととした。

第二の主題は、アーレント思想の意義を哲学・倫理学研究のなかで位置づけることである。この主題には、さらに次の三つの観点からのアプローチを試みることにした。

まず、カント、マルクスといったアーレントが影響を受けたり、批判的に対峙したりした哲学者・思想家らとの関係を捉え直す。カントに関しては主に「判断力」の問題を中心とし、マルクスについては「労働」概念を主軸とし、彼女が講義録や草稿のなかで展開していた彼らについての解釈を再検討する。

さらに、ヤスパース、ハイデガー、ヨナス、アンダース、フェーゲリンといった、アーレントと直接のやりとりがあった哲学者や思想家らとの関係については、書簡集や近年飛躍的に数を増している国内外の研究資料を活用して、それぞれの関係性をいっそう明らかにする。

最後に、レヴィナス、フーコー、デリダ、ナンシー、アガンベン、バトラーといった直接アーレントと交流はなかったものの、論点が交差する哲学者・思想家らが多々いる。彼・彼女らとの対照を通じ、現代哲学の問題系のネットワークのなかにアーレントを位置づけることを試みる。

第三の主題は、以上のような哲学・倫理学および思想史を中心に検討されるアーレント研究を踏まえ、社会学、教育学、科学技術論といった複数の角度から切り込み、アーレント研究の多様性および領域横断性を示す。

4. 研究成果

以下、全体での研究成果と個々の研究成果の概要を順に記す。

まず初年度では、日本アーレント研究会の夏の大会シンポジウムにおいて、「哲学と政治——フランス・イタリア思想におけるアーレント」を実施し、翌年の春の大会では金慧氏の『カントの

政治哲学『自律・言論・移行』の合評会を開催した。前者では、ナンシーヤリクールといった哲学者とアーレントとの関連について整理する機会となり、これは後述する『アーレント読本』の第 部「各国における受容・フランス」となって結実した。また後者では、第二の主題の格好の足がかりを得ることができた。

ついで二年目には、夏の大会シンポで「アーレント vs. カント——政治・自由・判断力」を実施するとともに、特別企画として分担者・百木の著書『アーレントのマルクス 労働と全体主義』（人文書院）の合評会を開催した。そのことで、「アーレントとカントの判断力論比較」と「アーレントとマルクスの労働思想比較」という第二の主題の共同研究を遂行した。ここでの研究成果は、百木が 2019 年に発表した二つの論考となって実を結んでいる。さらに春の大会では「「世界」と市民性——ヴィラのアーレント解釈を吟味する——」を行ない、また夏の大会では、ドイツの女性哲学者シュテファニー・ローゼンミュラー教授による特別講演会「ポピュリズムとアーレントにおける政治的・法的判断力——判断の欠如を矯正する可能性について」を実施し、「国際的なアーレント研究状況の整理」の遂行を果たした。ローゼンミュラー教授には、のちに『アーレント読本』の第 部「各国の受容・ドイツ」へとご寄稿いただくことができた。

そして三年目には夏の大会で米国の著名なアーレント研究者であるデーナ・ヴィラ教授を招聘し、国際シンポジウム「哲学と政治の間の緊張——シティズンシップについて」を開催した。ヴィラ教授の卓越した発表内容とそれに対する応答と全体での議論は、本研究課題の「アーレント思想の哲学・倫理的意義の総合的再検討」をまさに体現したものであったと言える。

なお本研究は、新型コロナウイルスの影響により、研究期間を一年延長することとなり、最終年度の四年目には、2021 年の春の大会でシンポジウム「「生まれること」を考える」をオンラインで実施し、本研究期間内に流行となった「反出生主義」の思想に対して、アーレントの「出生」の概念やレヴィナス、プロティノスの思想を参照しつつ、批判的な応答を試みた。本シンポは一般市民の方々にも広く視聴され、アーレント思想のアクチュアリティを確かめる良い機会となった。

上記した概要のうち、最終年度以外のものはすべて、日本アーレント研究会が発行する会報『Arendt Platz』において、文章としてまとめられている（研究会のホームページ上で全文ダウンロード可）。さらに本研究課題の最終成果物として構想された『アーレント読本』（法政大学出版局）を 2020 年 7 月に刊行した。国内外合わせて 50 名の執筆者からなる同書は、まさに本研究による最大の研究成果であると自負している。

つぎに個々の研究成果としては、代表者の三浦は、アーレントの思想の特徴をエリック・ホッファーやジャック・デリダ、トクヴィル、村上春樹を介して描き出す論考を順次発表したほか、これまでの自身の研究成果を単著『活動の奇跡：アーレント政治理論と哲学カフェ』（法政大学出版局）として公刊した。また分担者の百木は、先述の単著を発表後、「公文書問題」や「ポピュリズム」「人工知能」といった現代社会の諸問題に思想史の観点から果敢な応答をしつづけ、共著『漂泊のアーレント 戦場のヨナス』を刊行した。

分担者の渡名喜は、現代哲学・倫理学におけるアーレントの位置づけという観点からアーレントに関連した比較研究を進めつつ、ギュンター・アンダースやクロード・ルフォールに関する論文を発表したほか、専門のレヴィナスに関する論考も随時発表し、自身のレヴィナス研究を単著『レヴィナスの企て：『全体性と無限』と「人間」の多層性』（勁草書房）としてまとめて公刊した。そして分担者の木村は、アーレントの活動論をハイデガーの他者論や本来性の概念を用いて捉え直す論考等を発表したほか、研究期間全体を通してアーレントの『人間の条件』と『活動的生』を精読する読書会を運営しつつ、近刊予定の『ハイデガー事典』（昭和堂）の編集作業にも従事しつつけた。

また（3 年目から分担者として新たに加わった）河合も、ICT（情報通信技術）の観点からアーレントの「公・私・社会」の概念を分析した発表を行なうとともに、百木やアーレント研究会のメンバーらと 2017 年 2 月に科学技術振興機構（JST）の招きで来日していた Nicole Dewandre 氏とのセミナーを行なうことで、本研究の第三の主題である社会学、科学技術論といった複数の角度からのアーレント研究を遂行し、これは分担者の木村が研究代表者となった新たな研究課題「テクノロジー時代の人間の条件——アーレント思想の応用可能性」へと引き継がれることとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計37件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 17件）

1. 著者名 三浦隆宏	4. 巻 48
2. 論文標題 共生の作法としての対話	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界思想	6. 最初と最後の頁 85-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦隆宏	4. 巻 35
2. 論文標題 書評：入谷秀一『バイオグラフィーの哲学 「私」という制度、そして愛』ナカニシヤ出版	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会と倫理	6. 最初と最後の頁 260-262
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 三浦隆宏	4. 巻 3372
2. 論文標題 書評：河野哲也編『ゼロからはじめる哲学対話』ひつじ書房	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 木村史人	4. 巻 37
2. 論文標題 ひきこもりについての実存論的解釈	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立正大学文学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 49-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村史人	4. 巻 144
2. 論文標題 コロナ禍以後の高等教育の未来 授業動画の無料公開は、大学をいかに変えるのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立正大学文学部論叢	6. 最初と最後の頁 25-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村史人	4. 巻 2
2. 論文標題 口ゴスをのんだ犬	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ひとおもい	6. 最初と最後の頁 206-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村史人	4. 巻 5
2. 論文標題 書評：森一郎『世代間倫理の再燃 ハイデガー、アレントとともに哲学する』明石書店	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Arendt Platz	6. 最初と最後の頁 45-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河合恭平	4. 巻 5
2. 論文標題 ソーシャル・メディアとアレントの公・私・社会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Arendt Platz	6. 最初と最後の頁 39-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 百木 漠	4. 巻 3
2. 論文標題 D. ヴィラによる闘技主義的アーレント解釈 アーレント活動論の非個人的次元	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Zuspiel	6. 最初と最後の頁 22-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 百木 漠	4. 巻 48 (12)
2. 論文標題 人工知能と言語化不可能なもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 222-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡名喜庸哲	4. 巻 49 (1)
2. 論文標題 遠隔と接触: リモート時代におけるレヴィナスの「顔」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 120-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡名喜庸哲	4. 巻 21
2. 論文標題 アーレント・難民・収容所(1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 境界を越えて: 比較文明学の現在	6. 最初と最後の頁 57-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦隆宏	4. 巻 34
2. 論文標題 書評：古田徹也『言葉の魂の哲学』（講談社選書メチエ）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会と倫理	6. 最初と最後の頁 137-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渡名喜庸哲	4. 巻 1
2. 論文標題 イリヤとエロス 『レヴィナス著作集』から見えてくるもの	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 レヴィナス研究	6. 最初と最後の頁 8-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 百木漠	4. 巻 47（6）
2. 論文標題 ポスト・トゥルース	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 100-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 百木漠	4. 巻 147
2. 論文標題 アーレント、マルクス、ポピュリズム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季報唯物論研究	6. 最初と最後の頁 46-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 百木 漠	4. 巻 120
2. 論文標題 いま、マルクスを読む意味	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 37-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村史人	4. 巻 1
2. 論文標題 「ある」と「べき」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ひとおmoi	6. 最初と最後の頁 259-278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村史人	4. 巻 36
2. 論文標題 チンパンジーは退屈するのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立正大学文学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河合恭平	4. 巻 4
2. 論文標題 書評『公共的なるもの アーレントと戦後日本』(権安理 著、作品社、2018年)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Arendt Platz	6. 最初と最後の頁 57-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三浦隆宏	4. 巻 17
2. 論文標題 「悪」をめぐるふたつのルポ アーレントと村上春樹が向き合ったもの	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『人間関係学研究』	6. 最初と最後の頁 87-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三浦隆宏	4. 巻 50
2. 論文標題 観客と歴史家 あるいは傍観者、詩人、物語作家らをめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 椋山女学園大学研究論集 (人文科学篇)	6. 最初と最後の頁 33-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三浦隆宏	4. 巻 50
2. 論文標題 薄明かりの 平等 アーレントの政治的平等論の射程	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中部哲学会年報	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村史人	4. 巻 35
2. 論文標題 物語る者としての現存在	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立正大学文学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村史人	4. 巻 14
2. 論文標題 物語による意味の習得	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立正大学哲学学会紀要	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 百木漠	4. 巻 46-10
2. 論文標題 アーレント「政治における嘘」論から考える公文書問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 190-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 百木漠	4. 巻 40
2. 論文標題 労働者アイヒマン アーレント『イェルサレムのアイヒマン』再考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済社会学会年報	6. 最初と最後の頁 68-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 百木漠	4. 巻 145
2. 論文標題 解題『アーレントのマルクス』 寺島・斎藤両先生の批判に答えて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季報唯物論研究	6. 最初と最後の頁 138-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦隆宏	4. 巻 140
2. 論文標題 砂漠のなかのオアシス 沖仲士の哲学者ホッファーとアーレントとの邂逅について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 季報 唯物論研究	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦隆宏	4. 巻 49
2. 論文標題 嘘にとり憑かれた政治と 感覚 の狂い デリダ、アーレント、カントの三叉路	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 椋山女学園大学研究論集 (人文科学篇)	6. 最初と最後の頁 65-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 百木 漠	4. 巻 22
2. 論文標題 ポピュリズム、「右」の躍進と「左」の苦境	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 唯物論研究年誌	6. 最初と最後の頁 153-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 百木 漠	4. 巻 140
2. 論文標題 ハンナ・アーレント入門 『全体主義の起源』と『人間の条件』を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 季報 唯物論研究	6. 最初と最後の頁 78-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村史人	4. 巻 3
2. 論文標題 労働と活動としての技術 ブラックボックスの重層化としての現代技術	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Arendt Platz	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村史人	4. 巻 67
2. 論文標題 本来性における最も固有な「誰」 ハイデガーとアーレントにおける「共存在」と「他者」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 倫理学年報 (日本倫理学会)	6. 最初と最後の頁 175-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村史人	4. 巻 55
2. 論文標題 活動を物語るのは誰か	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 年報 (立正大学人文学研究所)	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡名喜庸哲	4. 巻 135
2. 論文標題 クロード・ルフォールとピエール・パシェ 抵抗の場としての内密性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文芸研究 (明治大学文学部文芸研究会)	6. 最初と最後の頁 221-238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yotetsu Tonaki	4. 巻 1058-1059-1060
2. 論文標題 Gunther Anders et le Japon. Penser le post-humain	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Europe	6. 最初と最後の頁 267-280
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 木村史人、渡名喜庸哲、百木漠
2. 発表標題 アーレントとヨナスの思想的交錯
3. 学会等名 社会思想史学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木村史人、渡名喜庸哲
2. 発表標題 ハイデガーと現代技術の問題
3. 学会等名 ハイデガー研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河合恭平
2. 発表標題 公と私を分けることと「社会的なもの」の認識 H・アーレントの思想の社会学的意義と射程
3. 学会等名 大正大学学内学術研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 百木 漠
2. 発表標題 Hannah Arendt's Thought of Labor and Totalitarianism
3. 学会等名 International Conference : Ecological Friendly Welfare States and Civil Society in Asian Countries : Based on Interdisciplinary Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡名喜庸哲
2. 発表標題 "Levinas et une pensee extreme sur l' Orient : reponse la critique de J. Butler"
3. 学会等名 Colloque international Le singulier et l' universel Levinas et la pensee de l' Extrme-Orient (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡名喜庸哲
2. 発表標題 "Teletechnologie et hantologie : de Levinas a Derrida"
3. 学会等名 International Conference 《 Derrida et la technologie / Derrida and Technology 》, Columbia Global Centers / Paris (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田喬、尾 絢子、木村史人、齊藤充、永井玲衣、堀越睦
2. 発表標題 哲学プラクティスの「実践」と「研究」
3. 学会等名 哲学プラクティス連絡会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河合恭平
2. 発表標題 ICTとアーレントの公・私・社会
3. 学会等名 日本アーレント研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡名喜庸哲
2. 発表標題 アーレント・難民・収容所 ギュルスからカレーへ
3. 学会等名 Keio refugee week 2018 / 日本アーレント研究会共同シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 百木渙
2. 発表標題 アーレントにおける労働と仕事の思想
3. 学会等名 中部政治学会（2018年度研究会）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 百木渙
2. 発表標題 アーレントはなぜマルクスを「誤読」したのか 解題『アーレントのマルクス』
3. 学会等名 大阪哲学学校（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 百木 漠
2. 発表標題 書評報告・ヴィラ『政治・哲学・恐怖』
3. 学会等名 日本アーレント研究会（春定例会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三浦隆宏
2. 発表標題 暗がりのなかの差別、薄明かりのままの平等 アーレント政治理論は平等と差別について何が言えるか
3. 学会等名 中部哲学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 百木 漠
2. 発表標題 労働者アイヒマン アーレント『イエルサレムのアイヒマン』再考
3. 学会等名 経済社会学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 百木 漠
2. 発表標題 アーレント、マルクス、ポピュリズム
3. 学会等名 唯物論研究協会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木村史人
2. 発表標題 労働と活動としての技術 ブラックボックスの重層化としての現代技術
3. 学会等名 アーレント研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yotetsu Tonaki
2. 発表標題 Mais qui aurait vu la fin du monde ? Des catastrophes differees et la catastrophe accomplie
3. 学会等名 La catastrophe devant soi. Enjeux ethiques, questions politiques, Columbia Centers Paris (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 日本アーレント研究会、三浦隆宏、木村史人、渡名喜庸哲、百木漠	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 430
3. 書名 アーレント読本	

1. 著者名 三浦隆宏	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 380
3. 書名 活動の奇跡：アーレント政治理論と哲学カフェ	

1. 著者名 犬てつ編、ミナタニアキ、安本志帆、河野哲也、高橋綾、松川えり、三浦隆宏	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Landschaft	5. 総ページ数 268
3. 書名 こどもと大人のてつがくじかん てつがくするとはどういうことか？	

1. 著者名 百木漠	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 256
3. 書名 嘘と政治：ポスト真実とアーレントの思想	

1. 著者名 戸谷洋志、百木漠	4. 発行年 2020年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 368
3. 書名 漂泊のアーレント 戦場のヨナス：ふたつの20世紀 ふたつの旅路	

1. 著者名 渡名喜庸哲	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 528
3. 書名 レヴィナスの企て：『全体性と無限』と「人間」の多層性』	

1. 著者名 曾我千亜紀、松井貴英、三浦隆宏、吉田寛	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 136
3. 書名 フランス・バカロレア式 書く！哲学入門	

1. 著者名 小川（西秋）葉子、是永論、太田邦史編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 244
3. 書名 モビリティーズのまなざし：ジョン・アーリの思想と実践	

1. 著者名 野口雅弘、山本圭、高山裕二編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 よくわかる政治思想	

1. 著者名 マーティン・ジェイ、日暮雅夫共編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 248
3. 書名 アメリカ批判理論	

1. 著者名 Orietta Ombrosi (ed.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Mimesis	5. 総ページ数 314
3. 書名 Il nucleare: una questione scientifica e filosofica dal 1945 a oggi	

1. 著者名 大阪哲学学校、花崎 皋平、三浦 隆宏、細谷 実、大越 愛子、河上 睦子、百木 漠、木村 倫幸、藤田 隆正、田畑 稔、平等 文博	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 344
3. 書名 生きる場からの哲学入門	

1. 著者名 百木 漠	4. 発行年 2018年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 340
3. 書名 アーレントのマルクス 労働と全体主義	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>日本アーレント研究会ホームページ https://arendtjapan.wixsite.com/arendt レヴィナス協会ホームページ https://sjeloffice.wixsite.com/levinas-jp ハイデガー研究会ホームページ https://heidegger.exblog.jp/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	百木 漠 (MOMOKI Baku) (10793581)	立命館大学・衣笠総合研究機構・研究員 (34315)	
研究分担者	渡名喜 庸哲 (TONAKI Yotetsu) (40633540)	立教大学・文学部・准教授 (32686)	
研究分担者	木村 史人 (KIMURA Fumito) (90757725)	立正大学・文学部・准教授 (32687)	
研究分担者	河合 恭平 (KAWAI Kyohei) (80822220)	大正大学・心理社会学部・専任講師 (32635)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	阿部 里加 (ABE Rika)		
研究協力者	齋藤 宜之 (SAITOU Yoshiyuki) (32641)	中央大学・文学部・兼任講師 (32641)	
研究協力者	橋爪 大輝 (HASHIZUME Taiki) (32664)	二松學舎大学・国際政治経済学部・非常勤講師 (32664)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 特別講演会「ポピュリズムとアーレントにおける政治的・法的判断力 判断の欠如を矯正する可能性について」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 国際シンポジウム「哲学と政治の間の緊張 シティズンシップについて」	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	ノートルダム大学			
ドイツ	ドルトムント応用科学大学			